

科目コード ICT021109

科目名	技術経営論 Technology Entrepreneurship		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・4 限	秋・月・5 限	-	-
担当教員名	伊藤 龍史	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は学外から講義を実施するが2回程度は講義室から行う場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講義では、技術経営論の中でも特に、起業の文脈における技術（テクノロジー）のマネジメントを学ぶ。具体的には、テクノロジー分野のバックグラウンドを持つ起業家を想定し、起業のプロセスのうち「製品開発」「研究開発」「マーケティングリサーチ」「ビジネスモデルの構築とピボット」の4つのステップに焦点を当てながら、各ステップにおける考え方（概念・理論など）および実用的なフレームワーク等を学ぶ。本講義のメインテーマは「テクノロジー・アントレプレナーシップ (Technology Entrepreneurship : 以下「TE」と表す)」である。理論の吸収だけでなく実践的方法（特にテクノロジーを活用したマーケティングリサーチの方法）も学ぶことをつうじて、このテーマに関連する専門的知識に加えて、先端的な実践力の習得も目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義はTEの文脈における起業のプロセスのうち、上記4つのステップを中心としながらも、各ステップにおける体系的な知識を身につけることを目指す。特に、TEに関連するマーケティングリサーチの実施およびリサーチ結果にもとづくビジネスモデルの作成に関しては、知識を実践に適用する力の習得および先端的なリサーチシステムの把握も目指す。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本講義では、世界の経営学者によって開発された、機械学習とAIを統合した次世代ビジネスリサーチ・システム「Yabase (ヤタベース)」を活用し、TEの文脈におけるマーケティングリサーチを経験する。また、受講生を複数チームに分け、それぞれのチームでリサーチ結果を踏まえたビジネスモデルを作成し、発表する。</p> <p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況、受講生のバックグラウンド、および受講者数によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：ガイダンス／イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：本講義の概略を紹介するとともに、TEの定義、イノベーション、大学発スタートアップをはじめ、本講義の鍵概念などについて説明する。 <p>2 回目：テクノロジーとイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：イノベーションの種類、イノベーションの戦略、社会におけるイノベーションの役割などについて説明する。 <p>3 回目：TEにおける製品開発（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：研究開発とイノベーションの間の「運び手」となる製品開発について、特に創造性と発明をテーマとして説明する。 <p>4 回目：TEにおける製品開発（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：研究開発とイノベーションの間の「運び手」となる製品開発について、特にプロダクトデザ 				

インをテーマとして説明する。

5 回目：TE における研究開発（1）

・要点：TE の起点となる研究開発の考え方について、その基礎的概念を説明するとともに、特にスタートアップの文脈に即した研究開発の全体像について説明する。

6 回目：TE における研究開発（2）

・要点：TE の起点となる研究開発の考え方について、その基礎的概念を説明するとともに、特に大学発スタートアップの文脈に即した研究開発の全体像について説明する。

7 回目：TE におけるマーケティング（1）

・要点：研究開発とイノベーションの間の「運び手」としての「製品」について、それを適切に市場へ送り出す上で必要となるマーケティングリサーチなどについて説明する。加えて、本講義の後半で活用する「Yatabase」の前提知識として、ビジネスリサーチのプロセスについても学ぶ。

8 回目：TE におけるマーケティング（2）

・要点：研究開発とイノベーションの間の「運び手」としての「製品」について、それが市場へ適切に広がっていく様子を捉えるイノベーションの普及モデルなどについて説明する。加えて、本講義の後半で活用する「Yatabase」の前提知識として、ビジネスリサーチのプロセスについても学ぶ。

9 回目：ビジネスモデルの構想とピボット（1）

・要点：テクノロジーを社会実装する上で鍵となる「ビジネスモデル」について、その構想方法を中心に説明する。加えて、本講義の後半で活用する「Yatabase」の前提知識として、ビジネスリサーチのプロセスについても学ぶ。

10 回目：ビジネスモデルの構想とピボット（2）

・要点：テクノロジーを社会実装する上で鍵となる「ビジネスモデル」について、その軌道修正・方向転換のあり方を中心に説明する。加えて、本講義の後半で活用する「Yatabase」の前提知識として、ビジネスリサーチのプロセスについても学ぶ。

11 回目：「実践的」ケーススタディ（1）

・要点：高度なテクノロジーが反映された「ハイテク製品」を有するスタートアップの事例を複数取り上げ、各事例を用いて「Yatabase」を活用したマーケティングリサーチ（定量的分析）のデモンストレーションを行う。

12 回目：「実践的」ケーススタディ（2）

・要点：大学発スタートアップの事例を複数取り上げ、各事例を用いて「Yatabase」を活用したマーケティングリサーチ（定量的分析）のデモンストレーションを行う。

13 回目：「実践的」ケーススタディ（3）

・要点：各種のスタートアップの事例を複数取り上げ、各事例を用いて「Yatabase」を活用したマーケティングリサーチ（定性的分析）のデモンストレーションを行う。

14 回目：チームプレゼンテーション（1）

・要点：受講生を複数チーム（1 チームにつき 4 名以内を予定）に分け、チームごとにビジネスモデル案のプレゼンテーションを行う（前半の複数チーム）。

15 回目：チームプレゼンテーション（2）

・要点：受講生を複数チーム（1 チームにつき 4 名以内を予定）に分け、チームごとにビジネスモデル案のプレゼンテーションを行う（後半の複数チーム）。

<講義の進め方>

科目コード ICT021109

あらかじめ、レジュメを配付する。各授業においては主に、前半でレジュメに関する講義を行い、後半でビジネスモデルの作成を行う。

<事前事後学習内容>

事前に配付するレジュメに目を通しておくこと。また、授業終了後の復習をつうじて知識を定着させること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習に十分な時間を確保すること（一般的に、授業の予復習にはおよそ計4時間かかることとされる）

<教科書及び教材>

教員が作成したレジュメ等を配付する

<参考書>

井上達彦（2025）『テック系スタートアップのビジネスモデル：起業の常識を覆す』東洋経済新報社。
清水洋・鉄川弘樹（2025）『研究開発の考え方：経営と技術をつなぐ』有斐閣。
原拓志・宮尾学（2017）『技術経営（ベーシック+）』中央経済社。

<成績評価方法>

- ・チームプレゼンテーション（80パーセント）および授業への参加状況（20パーセント）にもとづいて成績を評価する
- ・チームプレゼンテーションにおいては、チーム内での個人の役割および貢献を、発表資料内に明記すること
- ・授業への参加状況は、発言や質問などを中心として、授業への参加の積極性をみる
- ・欠席が6回以上となった受講生については、成績評価を行わない

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

講義内およびTeams等にて、全体に対するフィードバックを行う。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

基礎知識の学修に該当

<録画映像の視聴>

可

<オフィスアワー>

なし（事業創造大学院大学には講義時間前後しかいないため、質問や相談等がある場合は、伊藤のメールアドレス [iry@econ.niigata-u.ac.jp] へ連絡するようお願いします）

<その他>

特になし